



1枚に切り取る医療界の2週間

2019年5月27日号

Medical management support by astellas

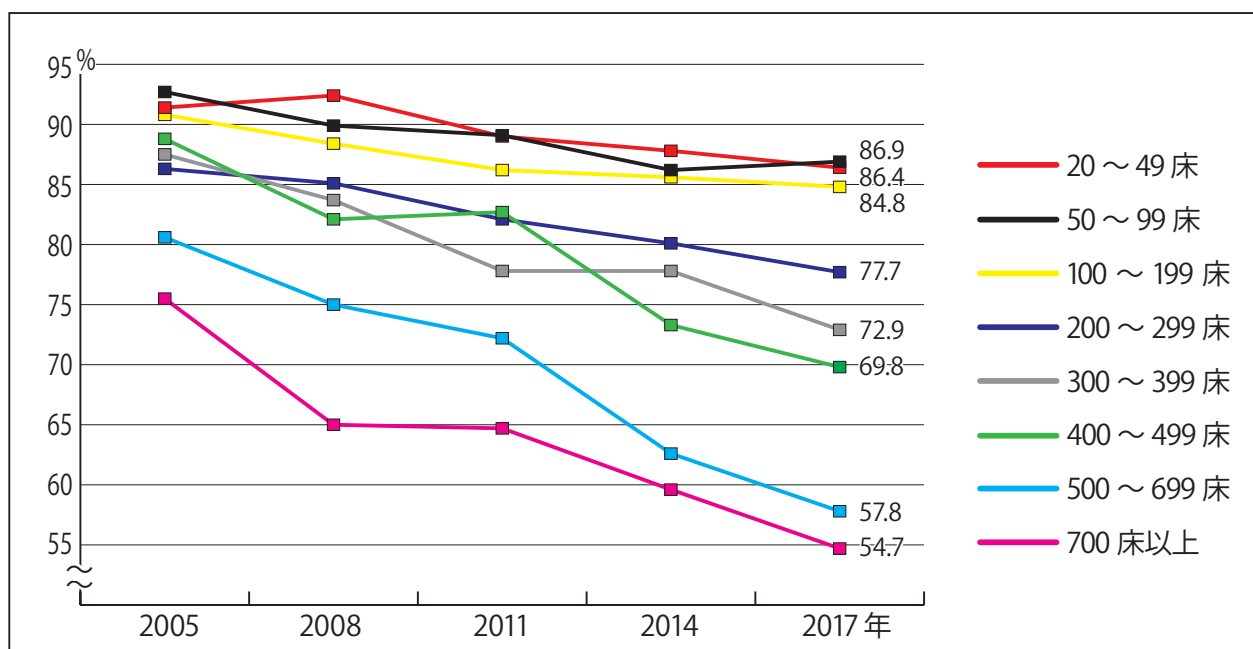
紹介なしの大病院等の外来受診は減少傾向 ～中医協でデータ等が示される

《背景》 中医協で、かかりつけ医機能や紹介状なしの大病院受診時の定額負担に関する事など、「患者・国民に身近な医療の在り方について」とした議題が挙がり、紹介状なしで大病院を外来受診する患者の割合は、全体的に減少傾向であるとの状況が示された。

《ポイント》 紹介状なしの外来受診については、2016年度から特定機能病院と一般病床500床以上の地域医療支援病院に、原則として定額負担の徴収を義務付け、2018年度からは、対象が特定機能病院と許可病床400床以上の地域医療支援病院に拡大された。

《解説》 紹介状なしの外来受診患者の割合は、特に、2018年度から定額負担の仕組みの対象となった病院で大きく減少しているといえます。一方、厚生労働省が3年に1回行っている患者調査の結果に基づいて作成したデータによると、定額負担の仕組みが導入される前から、紹介なしで病院を外来受診した患者の割合は減少傾向を示していました(下グラフ)。今後は、定額負担の仕組みの効果などによって、さらにその割合は減少することが推測されます。

◎紹介なしで外来受診した患者の割合の推移 ～ 病院の病床規模別



(厚生労働省が患者調査=3年に1回実施=を基に作成したデータに基づく)

《発行》

アステラス製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町2-5-1 〒103-8411

《内容についてのお問い合わせ先》

医療総研株式会社 (担当: 田中 勝志)

東京都文京区後楽2-3-4 第二松屋ビル 〒112-0004
TEL. 03-3817-8867